

受理年月日	令和2年2月17日	付託年月日	令和2年2月17日	所管委員会	福祉都市委員会
番号	2 年 請 願 第 1 号				
件名	難聴者に対する補助金制度の改善について				
請願者	城南区樋井川七丁目10-22 長谷川 敏夫 外151人				
紹介議員	高山				
分割付託	なし				
要 旨	<p>福祉目的で役所仕様の補聴器には助成制度があると聞き、早速買ってみました軽度の難聴者向けで、私の重度難聴の耳には合いませんでした。加齢とともに個人差もありますが70歳を過ぎてから急速に難聴が進み、耳鼻科の医師からは、加齢での難聴で対応は補聴器店の仕事と言われました。大学病院での検査の結果、補聴器が必要と聞き、特注で両耳の補聴器を作りましたが、5～6年が寿命とのことで度々買換えを余儀なくされています。</p> <p>補聴器の性能も最近ではデジタル化され、よくなってきていますが、自分の耳は場所に合わせて調整してくれますが補聴器ではその調整が非常に難しいようです。</p> <p>家の中での会話、テレビ、電話、まちなかの騒音、レストラン、地下鉄、バスの中等、環境の変化への対応、音にも濁音、響き音、金属音、高音、低音等いろいろあり、補聴器では自分の耳のようにはいかないと聞いています。補聴器店で、一番よく使う場所に合わせて切替えができるように作ってもらい、何とか日常の生活を維持しているのが現状です。</p> <p>家にいても「あなた呼んでも返事しないね」、「テレビの音がやかましい」などと言われ、電話でのやり取りでは、何度も聞き直し、聞き間違い、取り違い等で大失敗したこともあり、本当に情けないです。</p> <p>太宰府市五条に難聴者の会（会員約100人）があり、県の難聴専門の先生による難聴対処法についての講演会があると聞き、早速拝聴してきました。会話ができないときは筆談したり、口の動かし方で判断する練習をしたり、とても有意義な講演会でした。難聴者にはそれぞれの個人差がありますし、話が聞こえない場合は筆談、手話等の表現で相手に伝える練習もあり、僅か20～30分の対話の実践でしたがとてもよい勉強になりました。</p> <p>朝起きてから寝るまで補聴器を使用する時間が長く、その分消耗も早く、5年ごとに補聴器を作り替えねばならず、作りたくても価格が高くとても買えないという高齢者もたくさんいます。</p> <p>私も今年88歳になります。年金生活を余儀なくされ、医療費は増加傾向にあり、また、高度難聴者は補聴器を5年ごとに更新せねばならず、ぜひ助成をお願いします。</p> <p>聞こえには程度があり、両耳難聴者には助成がありますが、片耳難聴者は助成を受けられません。また、一般の老人向けの役所仕様の軽度の補聴器には助成があり、私費で買った高額補聴器は助成が受けられず修理も断られました。福祉のバランスが取れていないため、制度の見直しをしてほしいと思います。湿気補修を週に1回しないと聞こえなくなるので、病院と補聴器店での乾燥、補修を定期的に行う必要があります。アフターサービス期間が長く補聴器が高くなるのも仕方がないと思います。よって、以下の事項を請願します。</p> <p>1. 難聴者に対する補助金制度を改善すること。</p>				
審 査	令和 年 月 日	結 果	委員会		
年 月 日	令和 年 月 日		令和 年 月 日		
	令和 年 月 日		本会議 令和 年 月 日		

令和2年2月12日

福岡市議会議長

阿部真之助様

請願者 住所 〒814-0153

福岡市城南区樋井川7丁目10番22号

氏名 長谷川 敏夫



外 ~~152~~ 人

151



令和 2 年 2 月 12 日.

福岡市議会議長  
阿部真之助様

## 請願の趣旨

福祉目的で役所仕様の補聴器には助成制度が有ると聞き、早速買ってみました軽度の難聴者向けで出来ており、私の重度の耳には合いませんでした。加齢と共に個人差も有りますが 70 才を過ぎてから急速に難聴が進み、耳鼻科の先生からは加齢での難聴で補聴器屋さんの仕事と言われました。大学病院での検査の結果、補聴器が必要と聞き、特注で両耳作りしましたが5～6 年が寿命との事で度々買替を余儀なくされております。

補聴器の性能も最近ではデジタル化され、良くなって来てますが、場所に寄って自然の耳は調整してくれますが機械ではその調整が非常に難しい様です。

家の中での会話、テレビ、電話、街中の騒音、レストラン、地下鉄、バスの中等、環境の変化に対する対応、音にも濁音、響き音、金属音、高温、低温の音等色々有り、機械では自然の耳の様には行かない様に聞いております。補聴器店で一番良く使う、場所に合わせて切り替えが出来る様に作って頂き、何とか日常の生活を維持しているのが現状です。

家にいて呼んでも「あんた呼んでも返事しないね～」とか「テレビの音がやかましい」電話でのやり取りで「何度も聞き直し」「聞き間違い」「取り違い」等で大失敗した事も有り、本当に情けないです。(参考資料として友人から来た手紙添付)

大宰府市の五條には難聴者の会(約 100 名前後)があり県の難聴専門の先生に来て頂き、「難聴対処法についての講演会」が有ると聞き、早速拝聴してきました。会話が出来ない時は筆談でしたり、口の動かし方で判断する練習をしたり、とても有意義な講演会でした。

難聴者にはそれぞれの個人差がありますし、話が聞こえない場合は筆談、手話等の表現で相手に伝える練習もあり僅か 2～30 分の対話の実践でしたがとても良い勉強になりました。

朝起きてから寝るまで使用する時間も長くその分、消耗も早く、5 年サイクルで補聴器を作り替えねばならず、作りたくても価格が高くとても買えないという高齢者も沢山おられ助成をお願いする次第です。

## 請願事項

私も今年 88 才になります。年金生活を余儀なくされ、医療費は着々と増加の傾向にあり、又高度難聴者は補聴器を 5 年毎に更新せねばならず助成を是非お願いします。

(認定基準の資料添付)

聞こえの程度は 4 級～6 級迄あり両耳難聴者に助成は有りますが、片耳では助成が受けられず、一般の老人向けで役所仕様の軽度の補聴器には助成が有り、私費で買った高額補聴器は助成が受けられず修理も断られた事が有りました。役所仕様限定で福祉のバランスが取れていないように思っています。法律の見直しをして頂きたいと請願している次第です。

朝起きてから夜寝る迄使用時間が長く、湿気補修が週に 1 回はしないと聞こえなくなるので、医者と補聴器店での乾燥、補修が定期便になっております。

アフターサービス期間が長く補聴器が高くなるのも仕方が無いなと思っております。

宜しく申し上げます。

草々